

# 中央社保協ニュース

13-13号 12月2日発行・中央社会保障推進協議会（03-5808-5344）

## 社会保障解体狙うプログラム法案 「改悪メニュー」を住民に知らせ 地域の団体・個人と共同の運動広げよう

全国各地から150人参加  
「いのちを守る運動」熱心に交流



12月1日、第4回地域医療を守る運動全国交流集会在東京で開かれ、全国から150人が参加しました。日本医労連、自治労連、社保・年金病院の公的存続を求める全国連絡会、中央社保協でつくる実行委員会が主催。吉田万三・中央社保協代表委員が開会挨拶（写真上・中央）。今国会の重大争点となっている秘密保護法案についてふれ、強行を許せば今日のような市民集会や運動への規制・干渉が強まるとし、何としても廃案を勝ちとろうと提起しました。



午後からは3つの科会が開かれ、第1分科会-Aでは旭中央病院（千葉県旭市）と地域の医療を守り充実させる「緊急提言」を発表した取り組みについて、千葉県社保協加盟団体の永島達哉・県医労連書記長が報告しました（右端）。

全国保険医団体連合会の寺尾正之氏が「社会保障制度改悪の問題点～国民会議『報告書』の『プログラム』法案から」と題して講演。医療・社会保障改悪メニューの内容を住民に知らせ、地域の団体・個人と共同・連携を広げることが重要と強調しました。